

## 平成27年度 県小教研学習指導改善調査【結果分析】第4学年国語

### 1 調査結果の分析

#### (1) 読み取り・資料活用・選択について (①～⑦)

##### ア 資料を読み取る力・・・(①～③)

正答率は、①は76.4%、②は76.6%であった。インタビューの前後の回答を読み、その回答に合う質問を選択する問題である。昨年度の4学年の同項目で①が91.8%であり、ポイントとしては、大きく下がっている。選択箇所のすぐ後にキーワードが入っていた昨年度問題と比べ、「一番の」という言葉が入っておらず、見つけにくかっただろうか。②は昨年度76.5%であり、同程度である。前後の文脈を読み取り、適切に選択肢を選ぶ力が付くよう、継続して指導を行っていく必要がある。

③の正答率は、73.5%である。南風海水浴場の一番のおすすめを答える問題である。資料を読み取って該当箇所を書き抜くような問題については、比較的答えやすいと考えられるが、誤答も24.9%と多い。インタビューの内容を正しく読み取る力を付けていく必要がある。

##### イ 話題に沿って必要な事柄を選択する力・・・(④)

正答率は60.6%である。「親子いっしょに野外活動」のテーマそのものを読み取れていない誤答が多い。書かれていることを正しく読み取り、問われていることに適切に答える力を付けていく必要がある。また、「紹介しなかったのはなぜですか。」と普段あまり問われないことを聞かれており、こういった設問に答える経験が少ないことも、正答率を下げの一因となっているかもしれない。普段から、様々な種類の質問に答える経験を積むことが必要である。

##### ウ 常体・敬体をそろえて文章を記述する力・・・(⑤)

正答率は58.2%である。資料から常体になっている文を見つけ、敬体に直す問題である。該当箇所を見つけ出すことはできているが、文の一部だけを抜き出してしまふ、句点を書き落とす等の誤答が見られた。「文」の意味をもう一度とらえ直すことが必要である。また、文を抜き出す、句読点を落とさない、などの問題条件を読み落とさず、問われていることに正確に答える力を付ける必要がある。

##### エ 内容に応じて資料を分類する力・・・(⑥・⑦)

正答率は、⑥は53.8%、⑦は57.2%である。どちらも分類したメモのグループに見出しを付ける問題である。誤答としては「運動の」「自然の」など自分で考えた言葉を入れてしまうもの、「アスレチック」「観察」など具体的な活動名を入れてしまうものなどが挙げられる。問題で問われていることに正しく答える力が不足していると考えられる。また、パンフレット型の資料など、非連続型テキストから必要な情報を読み取る経験を重ねていくことも大切である。

#### (2) 記述問題について (⑧～⑪)

##### ア 全体の構成を考えて記述する力・・・(⑧)

正答率は43.0%で、全設問の中で最も低い結果となった。紹介文の組み立てを考え、「まとめ」の部分を書く問題である。「まとめ」が「始め」の繰り返しになってしまったり、「中」の部分にしか言及していなかったりする誤答が目立つ。また、無答も7.9%あり高めである。これは、「まとめ」の部分にどんなことを書いたらいいのか、分からなかったのではないかと考えられる。書くことの指導の中で、「まとめ」は「始め」と対応して書くこと、「中」の内容を受けてまとめることの二つを意識して指導することが必要である。また、社会や総合的な学習などで紹介文を書く活動を行う際に、学習したこと

を生かすことができるようにしていくことも大切である。

## イ 時間内に指定された文字数で文章を記述する力・・・(⑨)

⑨は、指定された文字数以上で文章を書こうとする学習意欲と、実際にどのくらい書けるかという技能をみとることができる設問である。正答率は 68.8%である。26 年度の正答率が 79.3%、25 年度が 80.1%であり、徐々に正答率が下がっている。誤答率は 20.2%、無答率も 11%ある。この設問での誤答は文字数が指定された字数に足りていないこと、無答は全く記述がなかったということであり、どちらも高い数値であると言える。これは、書くことに対する抵抗感が年々増していると言える。全く書けなかった又は、指定字数まで書けなかった児童に対してどのように書いたらよいかについて具体的な指導が必要である。例えば、字数でなく文の数を示す、目安になる線が入った用紙を使うなどが考えられる。また、授業の中でテーマを示して、短い文を書くような課題を取り入れるなど、時間内に決められた字数で文章を書く経験を継続していく。

## ウ 話題に沿って必要なメモを選択し、記述する力・・・(⑩)

問い五が未記入であったり、文字数が足りなかったりした場合も誤答、または無答となることから、正答率は、53.6%と低めとなっている。誤答の中では、例を参考にせず、自分の言葉や感想を入れて書こうとするものが多かった。これは、生活文と紹介文との区別がついていないためと考えられる。国語で紹介文に取り組む機会は多くない。国語の時間だけでなく、社会や総合的な学習などを通して、紹介文を書く経験を積み重ねていくことで、力が付いていくと考えられる。また、課題を把握できず、北山森林公園についての紹介文ではなく、問題文に例として出てきた南風海水浴場について書いてしまう誤答も目立った。問題を読み返す、キーワードにサイドラインを引きながら読むなど、問われていることを正確に読む習慣を付けていく必要がある。

## エ 段落を意識して記述する力・・・(⑪)

⑪は、「始め（紹介すること）－中 1、2（活動一・二）－終わり（まとめ）」の 4 段落構成で記述する力と、段落ごとの書き出しを 1 字下げで書くという基本的な力が要求される設問である。どちらか片方だけでできていても正答にはならないため、正答率は 53.5%と低めになっている。誤答としては、一字下げで書くことができなかったものが 1 番多くあげられる。この傾向は、昨年度までも見られているため、今後とも段落指導において確実な指導が望まれる。次に多く見られた誤答としては、4 段落で構成できないというものである。特に、中を二つに分けて書くことが難しかったようだ。段落構成については、低学年で「始め－中－終わり」という基本的な文章構成を学び、経験を積んでいることが必要である。その経験を踏まえて、中学年では組み立て表を使い、中をさらに詳しく書く学習を行うことで、段落を作って文章書くことに抵抗が少なくなると考えられる。

## 2 今後、重点的に指導してほしい活動

### (1) 国語の学習で

- 資料から必要な情報を取り出し、適切な内容で文章を書く機会を設定すること。
- 段落書き出しの一字下げなど、基本的な原稿用紙の表記のきまりを守って文章を書くこと。
- メモや資料をもとに「始め－中－終わり」の構成を意識して文章を書くこと。その際、「終わり」がまとめになるような構成の文章を書く経験をもたせること。
- 低学年から、「始め－中－終わり」の構成を意識して書く経験を積んでいくこと。

### (2) 他教科や総合的な学習の時間で

- 複数の取材・見学・観察メモなどの資料を基に、文章を書く経験を多くもつようにすること。
- パンフレットや図、表、絵地図等の非連続型テキストにふれ、解釈する機会を多く持つようにすること。